

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果  
作成日

平成 23 年 6 月 10 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770106918		
法人名	医療法人 錦秀会		
事業所名	グループホーム 清泉		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府堺市南区豊田1748-2		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年6月21日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 カロア
所在地	大阪市天王寺区堀越町1-1 四天王寺堀越ビル カロア事務局
訪問調査日	平成23年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①母体法人の病院と医療連携を図り、医療・福祉サービスを総合的に提供しています。医療ソーシャルワーカーとも連携を図り、体調の変化に対して、迅速に外来受診や入院の対応を行っています。入居者様、ご家族様も安心して利用して頂けるように、常に予防的な備えを心がけています。②ゆったりとした敷地内に2棟の平屋造りで、中庭を設け、リビングや台所、居室にも十分に光が入るような設計となっています。又窓からは四季折々の風景を眺めることができます。③職員のスキルアップを図るように、法人内研修、事業所内研修を行っています。職員は介護福祉士、常勤者が多く、入居者様のペースに合わせてゆったりと過ごして頂けるよう取り組んでいます。④ISO9001の認証を受け、サービスの質の向上に努めています。定期的に法人内部監査、BSI審査があり、BSI継続審査では、良い評価(グッドポイント)を受けました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

母体法人は医療法人であり、医療・福祉サービスを総合的に展開されています。また、地域医療が充実しており、法人系列以外の医療機関とも密接に関わりがあります。また、ホーム内の環境は、明かりが多く取り込まれて、中庭もあり、ゆったりとした雰囲気、入居者の方も、家族も安心して利用出来る環境となっています。運営面では、ISO9001の認証を受けておられます。また、研修も充実している事、人事考課により、職員個々の教育や指導がなされており、効果的にサービスの品質向上・職員のスキルアップに努めておられます。全体的には、ご家族への、日々の様子をきめ細かく伝達している事や、入居者への声かけや対応方法から、サービスを利用する方への対応が充実し、安心して利用出来る印象を受けました。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づき、ホームの理念を作り、研修やミーティングで話し合い、理念に沿った目標を掲げ、毎月評価し取り組んでいます。	法人理念に基づき、年度計画を作成。目標を掲げ、毎月評価し、職員と話し合い周知をされていました。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム前の清掃をしながら地域住民との関わり、登校の見守り隊の参加、近隣保育園との交流を積極的に取り組んでいます。	地域住民と共に見守り隊に参加。学校に通う学生と挨拶をしたり、近隣の保育園との交流や、園児の散歩中ホームに立ち寄るなど日常的に交流をされていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の入居相談や介護相談等に対しても対応し、必要に応じてサービスの紹介。同じ区内のGH事業所と連携し、地域住民に向けての認知症啓発活動。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議依頼の案内を入居者家族全員に送り、自治会、有識者や地域包括も参加して頂き、多くの意見を伺い、日々のサービスに反映するよう取り組んでいる。	全入居者の家族に参加を呼び掛け、幅広く意見を聞く姿勢と、ホームの方針や取り組みに理解を頂こうと尽力されていました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	同一地域のグループホーム連絡会を定期的に行っている。連絡会では、行政とも意見交換を行い、相互に協力関係を築くよう取り組んでいます。	同一地域のグループホーム連絡会で、地域包括や福祉課の参加があり、連携を持ちながら取り組まれました。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていない。職員間で身体拘束、抑制しないケアについて、研修や話し合いを行い、入居者様主体のケアに取り組んでいる。	研修会を開催し周知されていました。また、玄関や中庭の入り口も鍵をかけず、外に出ようとされる方に対しても付き添うなど、入居者のペースに合わせて対応されていました。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で対策委員会が設置され、虐待防止マニュアルを整備。ホーム内でも虐待防止について研修を行っている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料などを準備し活用できるようにしている。法人内のソーシャルワーカーと連携を図り、必要な人には活用できるようにしている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時は、運営推進会議で説明、家族に説明の書面を送っている。疑問があればいつでも受け付け、説明するように努めている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、出来るだけ多くの家族様の意見が伺えるように、全員に出席を依頼している。日頃より、家族と関わりを持ちながら、話しやすい雰囲気を取り組んでいる。	面会時に近況報告をする等、積極的に関わり、何でも相談し易い雰囲気作りを心掛けていました。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	ミーティングや日頃から、意見や提案を聞くようにし、職員間の連携を大切に、職員一人ひとりが役割を持ち、サービス向上に向けて取り組んでいる。	管理者と職員の個別面談を年2回行い、目標の達成状況や意見交換を行っておられました。また、日頃から個々の職員に各委員会の責任者、行事担当者等役割を持ちながら、サービスに反映させていました。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能要件書に基づき、目標管理制度を導入し、向上心を持って働ける、やりがいのある職場環境を整備している。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て、法人内外での研修を積極的に受けるようにしている。研修後は伝達講習や資料の回覧を行い、職員間で周知できるように努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	堺市全体と南区内の事業所連絡会を定期的に開催。同業者との交流を行い、入居待ちのネットワークを作り、必要なときに早期に入居できるように配慮している。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、利用者の自宅に伺ったり、事業所へ来て頂いたり、出来るだけ会う機会を作り、馴染みの関係が出来るように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りが心がる。入居までに出来るだけ連絡を取り、入居準備の支援や不明な事、不安な事がないか等、聴く機会を設けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて、必要なサービスの情報提供を行ったり、他のサービス事業所へ連携を図ったりしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、入居者様のペースに合わせて、職員が共同で行うことが出来るような関係を心がけている。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様へ積極的に行事に参加して頂く声かけ、家族様に手伝って頂けることはお願いして、入居者様、家族様、職員も一緒に時間を過ごせるように取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、家族以外の面会や馴染みの場所への外出を支援している。	家族の協力を得ながら、友人や元職場の同僚などの面会や、ホームドクターの通院等、馴染みの方と関係が希薄にならない様心掛けていました。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が環境設定や声かけを行うことで、掃除、洗濯干し、レクリエーション等利用者同士が関わりを持ちながら、行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、病院やサービス事業所と連携を図っている。契約が終了しても、相談に応じることを伝えている。	

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族からの情報収集、日々生活の中での会話やしぐさ、習慣の中から得た情報をケアに反映している。	生活歴や、家族からの情報をもとに、活躍する場面を作る事や日課の継続など、その人らしい暮らしが出来る様配慮されていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人、家族から生活歴や暮らしぶりをお伺いする。利用していたサービス事業所や担当介護支援専門員からの情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに担当介護士を決め、介護支援専門員と共に把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当介護士と介護支援専門員を中心に介護計画の作成と毎月モニタリングを行い、職員間で話し合うようにしている。より良いケアに繋がるように取り組んでいる。	日頃から家族とコミュニケーションを図り、情報収集されていました。また、仕草や行動から対応方法を検討し、担当職員と介護支援専門員が共同で計画作成を行っていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別の記録や申し送りで情報を共有し、モニタリングチャートを定期的に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や入院の付き添いを行い、迅速に対応している。入居者様主体にサービスを提供出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、幼稚園児との交流会を積極的に行う。消防署立会いの下、災害訓練を定期的実施。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関で受診できるように配慮している。医療連携を強化し、入居者様、家族様が健康について安心できるように、迅速に対応している。	元々のかかりつけ医への通院も可能。また、地域の医療連携も円滑で、往診の受け入れも可能。また、歯科受診や年2回の歯科医が訪問し、健康指導と検診をされていました。また、月1回の精神科の受診もあり、医療対応は充実していました。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師訪問時には、様子を伝え、介護上の注意点などを聞き相談している。体調の変化があれば、すぐに報告し必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院されたら、サマリーを渡し、申し送りを行っている。入院先の病院と連携を図り、現状の把握、早期退院に向けて往診医とも相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合や終末期の在り方について説明し、希望を伺い、かかりつけ医や病院と連携を図りながら、出来るだけ希望に沿えるように努めている。	何かあれば病院対応を希望される方が多いとの話でしたが、可能な限り、本人・家族の意向に沿った方向で対応は可能でありました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え研修を行い、マニュアルを整備している。救急蘇生のデモを全職員で行い、実践力が身に付くように訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を昼夜想定を変えて、年2回行い、自主訓練も実施している。スプリンクラーを設置し、災害対策を行っています。	年2回消防署の指導の下訓練を実施。また、2カ月に1回職員による訓練を行っていました。訓練には自治会長や民生委員の方も参加されていました。災害対策マニュアルについても、職員と協議し見直しを行い、周知されていました。	災害時は、ホーム職員や同一法人職員だけでは、対応出来ない事も想定され、近隣住民の協力も不可欠です。地域住民が参加しての訓練を実施したり、協働で研修会をするなどし、日頃から関わりを持ち、災害時には気に掛けてもらえる様な働きかけに期待します。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者様、家族様への言葉かけや対応について、職員で話し合い配慮している。基本的なマナーや介護士の心得を年2回自己チェックし、接遇やマナー研修も行っている。</p>	<p>人事考課により、職員の自己評価システムを構築されています。自己評価や能力・業績の評価で、マナーや接遇のについて評価し、能力を高めておられました。訪問中様子を観ていても、入居者のペースに合わせ、それぞれの入居者に合わせた言葉掛けをされていました。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の思いや希望を出るだけ聴くようにし、意思確認に努める。意思表示が困難な利用者には、表情や行動で理解するように努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の都合や日課を優先するのではなく、入居者様一人ひとりの希望やペースに合わせて支援できるように、職員で話し合い、日々取り組んでいる。</p>	<p>職員の都合が優先しない様、ミーティングで周知されていました。外へ行こうとされる方にそっと寄り添い、納得できるまで対応するなど、一人ひとりのペースを大切に対応されていました。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>洋服を出来るだけ自分で選んで頂けるようにしている。本人の以前の好みを家族に聞くようにしている。ヘアカットも希望通り美容師へ伝えている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の配膳下膳、食器洗いやテーブル拭き等、職員と一緒にやっている。職員も一緒に食事を摂り、食事を楽しむようにしている。行事食やお楽しみ食がある。</p>	<p>外部業者のチルド食品ですが、野菜や果物などはそのまま運び込まれ、一部調理をしながらの対応をされていました。食事時の雰囲気は、職員と入居者が楽しく会話をされていました。また、後片付けでは、入居者同士が自然と、出来る事を協力しながら行っておられました。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士による、メニュー作成。嚥下困難や咀嚼困難な利用者に対しての特別な対応。一日の食事量や水分量のチェックを行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>法人歯科衛生士と連携を図り、口腔ケアの指導、相談、年2回健康教室と口腔内検診を行い、一人ひとりに合った口腔ケアが出来るように支援している。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄時間を記録し、排泄パターンの把握、時間を決めてのトイレ誘導を行う。適宜紙パンツや尿取りパッドの検討を行う。	トイレに座って排泄をすると事が大切と考え、ポータブルトイレよりもトイレの意識が高く、尿意がない方は定期的に声をかけ、夜間もトイレへの案内をされ、自立支援に心掛けていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便時間と排便間隔を把握するように努める。水分補給、身体を動かすこと、トイレに座り腹圧をかけるよう声かけし、便秘の予防に努めている。緩下剤の調整		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は基本的には2日に1回実施しているが、必要に応じていつでもシャワー浴が出来るように対応、又夏場など入浴回数を増やし、清潔保持に努めている。	歩行が困難な方でも2人介助で湯船に入るなど、どのような方でも、ゆっくりと入浴が出来る様配慮されていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースに合わせて、休息したり、眠れるように努めている。特に就寝時間や起床時間は決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬剤情報をファイルし、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし、出来ることを見つけ、役割を持って頂く。庭にでたり、散歩に行き、気分転換を図る。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホームの周辺、屋外の花壇、中庭へはいつでも出られるようになっており、日常的に散歩できるように支援している。外食等家族に協力して頂いている。	近隣に城跡があり、ハイキングコースにもなっています。日常的に散歩や中庭の手入れが出来る環境となっています。また、喫茶店やレストランへ外食等も行かれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理し、公衆電話を使用出来るようにしている。お金の所持を希望される入居者様には所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人宛の手紙が届けば、お渡しし、自己で保管できるように支援している。公衆電話の設置や電話の取次ぎをいつでも行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広くゆとりのある間取りで、光が良く入り、屋外が眺められ、季節感を感じることができる。中庭に洗濯物や布団を職員と一緒に干す事ができる。	天井が高く、明かり取りの小窓があり、明るく、中庭が一望出来、温かみのある空間となっています。玄関は広く開放的で、リビングと少し離れた場所に、居間があり、面会等で他者を気にせず過ごす事が出来る様工夫されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、共用のテレビやソファを置き、利用者同士で過ごせる場所と一人で過ごせるよう、椅子とテーブルがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使い慣れた物や好みの物を持ち込むことが出来る。ベッドや布団の選択ができる。	使い慣れた物を持ちこまれたり、家族の写真や趣味の道具など、居心地の良い空間となっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉と居室の扉を色分けしている。居室の表札や目印は、入居者様・家族様に自由に付けて頂き、認識しやすいよう工夫している。		

## V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない